

学校だより

プラタナス



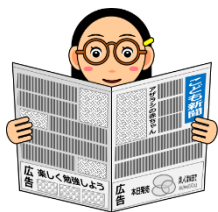
令和3年6月18日(金)

市川市立市川小学校

No.10

校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>



新聞などから「言葉のプレゼント」を受け取ってほしい

5月末の校内授業研究会(※裏面に記事掲載)に講師としてお招きした大妻女子大家政学部児童学科准教授の樺山敏郎先生は、国語科教育を専門とし、学力テストの国語科の調査編集や教科書編集委員をされています。その樺山氏が、親子で新聞を読む効果について、朝日新聞「Edu A」(2020年11月)で語っています。

難度の異なる2つの文章を読むことを「重ね読み」ということで、「重ね読み」をすることで理解が深まり、もっと知りたいという好奇心も湧くといえます。例えば、子供向けの新聞に興味を持った記事があるとしたら、一般紙の関連する記事を脇に並べておくことで、子供は両方の記事から知識を深めます。さらに、子供向け新聞にはなかった新たな言葉との出会いも期待できます。1日25分、年200日の読書をする学齢期児童の場合、年間1.5～3万語の新しい言葉に出会うという研究報告もあるくらいですから、新聞を読めば1日10個くらいの「言葉のプレゼント」を受け取れることになるので、語彙力や読解力の高まりが期待できるわけです。

ただ大事なのは、子供に新聞を与えるだけにせず、親と一緒に読む姿勢を示すことのようにです。「どうしてなのかな?」「調べて教えて」などと問いかけ、会話のきっかけや親子の関係を深める手立てにもなります。多面的な見方が育ち、自分なりの考えを広げたり深めたりできます。樺山氏は、「感想を言い合うときには、親の考えが唯一の解ではないという立場を崩さないようにすることも大切です。子供の意見のほうが発見していることもあります」と述べています。

また、樺山氏は「新聞で得られる学習効果」を、次のように5つ挙げています。

- (1) 報道・社説・コラム等には、経済や文化、政治、国際、スポーツなど多岐にわたる内容が取り上げられ、「知の宝庫」として教養を高められる。
- (2) 世の中の動きへの関心を高められる。
- (3) 新聞の構成から、情報の全容を素早く把握し、必要な情報だけ詳しく得ることができる。
- (4) 図表と文章とを関連付けて読み解く力や、内容や図から表現する力が高められる。
- (5) 得た情報を自分の考えの根拠にしたり、意見を補完する事例としたりすることで、論理的な文章力を育成できる。

現行の学習指導要領や大学入試改革では、これまで以上に「思考力・判断力・表現力」が求められています。様々な情報を読み取ったり関連付けたりして自分の考えをまとめる力が問われます。4年生以上の各教室に毎朝配られる新聞2紙は、新聞協会のご厚意で届けられているものです。これを活用しない手はありません。授業も同様。塾等の学習が最優先で、教室で朝から机に伏している子を時々見かけますが、知識獲得以上に考える要素に溢れているのが学校の授業だと考えます。

親子で新聞 効果の循環



国語の学習で学んだことを生かして書いた作品です。自分を客観的に観察し、思いを人に伝えるための表現・工夫を感じます。

※読点や改行、漢字変換など、一部原文とは異なります

好きこそものの上手なれ

6年 S・K

この世には「好きこそものの上手なれ」という言葉がある。意味は、好きなことだと上達するのは早いという意味だ。

だが私にとっては、あるものを好きになると、そこからつながるものも好きになり、どんどんその好きなものについて詳しくなる。私はこれを「好きの食物連鎖」と呼ぶ。好きなものをさらに好きなものが食い、それが続いてゆく。なにがあるかと食物連鎖はやがて元の状態にもどる。これと同様で、なにがあるかと好きは続いてゆく。

例えば、昨年の一月に私は友人から鬼を滅するようなアニメをすすめられた。友人がうるさかったので、そのアニメを見た。アニメはまあ好きだがそれほどでもなく、ゲームの沼にどっぷりはまっていた私が、その物語に引き寄せられるかのように夢中になった。これは、どうしてもほしかったものが誕生日にもらえた時ほどの夢中だった。気づいたらもう夕方になっていた。その後、そのアニメのマンガを購入した。これもまた夢中になった。周りの音は何も聞こえず、物語に引き寄せられた。そして、マンガのすばらしさに気づいた。それから私はたくさんマンガを読むようになった。

私は不思議なできごとに気づいてしまった。正しく言えば、気づいてはいたがその問題については考えなくなかった。そう、私の財布から野口が消えてゆく。私はひらきなおって、これはいい経験をしたのではないだろうかと考え始めた。「これって、マンガのおかげでお金の大切さに気づけたといっても過言ではないだろう」と、一人口に出し考えた。マンガの人物の心情を考え、読み解くことで、豊かな思考や心を持てたのではないだろうか。(後略)

生活と礼儀

6年 T・A

ぼくは剣道を習っている。

一般的な剣道は、面を打てばそれで終わりだ。でも、ぼくの習っている剣道は少し違う。ただ面を打てば良い訳ではないのだ。ぼくの習っている剣道は、「剣を交えて

相手への礼儀を学ぶ」というポリシーがある。座るときも足をつく順番、姿勢を一番教えられる。

では、礼儀とは習わなければならないことだろうか。

ぼくはそうは思わない。礼儀とは、我々の生活に通じるものと考えている。日本には客人をもてなすときに、お茶やおかしを出すといった文化がある。これも礼儀の一つと言えるだろう。

しかし、礼儀とはそう簡単に実行できるものではない。習慣化する必要がある。そのためにぼくは剣道をしているのだと思う。

この礼儀とは、相手への思いやりが形となって我々の生活に良く働きかけてくれるだろう。我々は、常に思いやりをもち、形に表すことで良い人間関係を築き、保てるだろう。生活と礼儀はつながっているのだ。



授業研究会はこんなふうに…

5月31日(月)5校時に、6年4組で国語科「雪は新しいエネルギー」という教材で授業研究を行いました。コロナ禍ということもあり、教室で参観するのは各学年1名のみ。その他の職員は体育館でZoom参観としましたが課題も…。

授業後の全体会は体育館です。今回は12月に実施する「学力向上研究校公開研究発表会」に向けて、提案授業をもとに、1面で紹介した樺山敏郎先生に講演をお願いして学びなおしました。

